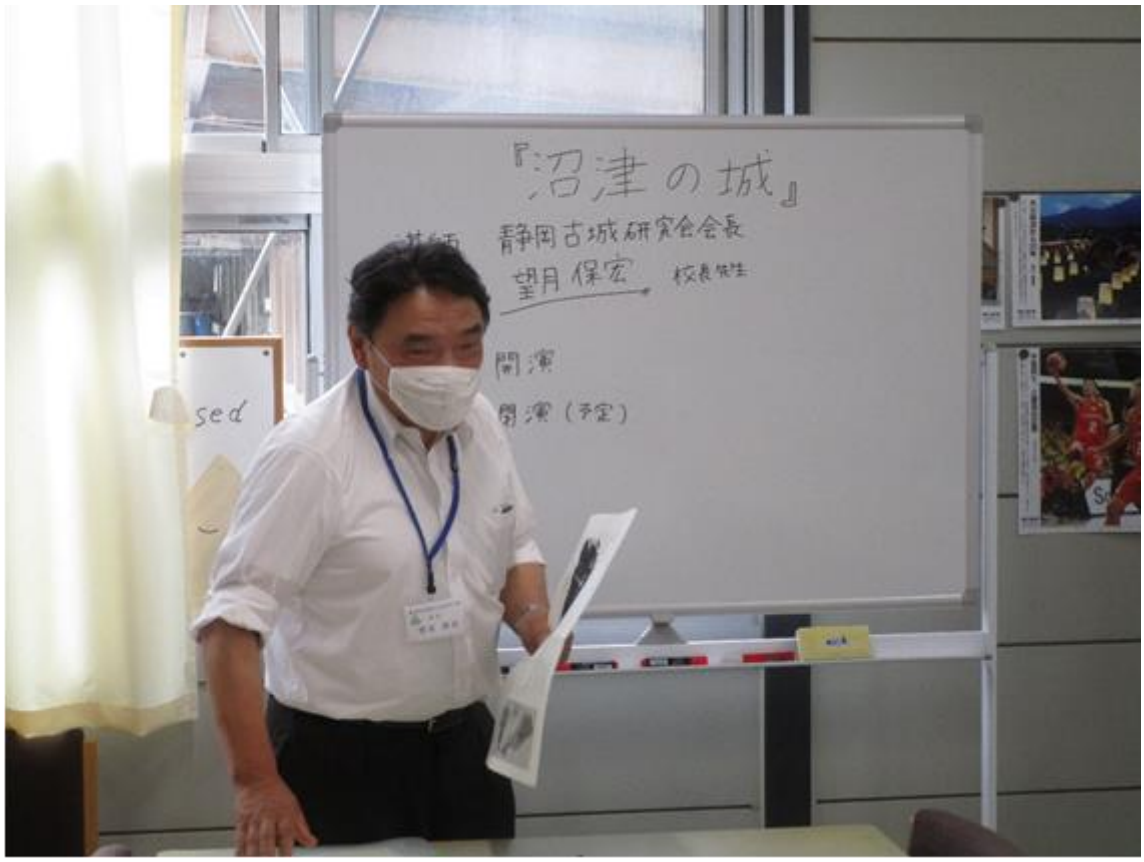
沼工セッション　（６／１６）報告



「沼津のお城」

望月保宏校長先生　（静岡古城研究会会長）

お話のあらまし

　私は大学時代に考古学を専攻した。考古学には測量・製図が必須なので、考古学を学ぶ場合、工業科出身の学生は普通科出身の学生より有利である。歴史の知識は、江戸時代と室町時代のどちらが先か分かっている程度で充分だ。
　沼工生も考古学を進路の一つに考えてみてはどうだろうか。

　城というと天守閣や石垣を連想する人も多いと思うが、天守閣などが登場するのは戦国時代の末期で、基本は「土の城」。全国には約３万～５万カ所の城があり、そのうち静岡県には約８００カ所、沼津には約５０カ所ある。

（次ページへ続く）

沼津は、北条早雲（伊勢宗瑞）、今川義元、武田信玄など戦国大名が奪い合った場所だった。当時、沼津は陸上・水上交通の重要な場所で、特に物資の運搬は船に頼っていたため海に近い沼津は好立地だったといえる。又、沼津は米の産地でもあった。

沼津の城の中で有名なのは「興国寺城」「長浜城」「三枚橋城・沼津城」である。続日本百名城となった「興国寺城」の天守台跡からの眺めは絶景。北条氏の水軍の根拠地だった「長浜城」はラブライブの聖地・内浦にある。「三枚橋城」の石垣は沼津リバーサイドホテルの入り口に展示されている。「三枚橋城」は１６１４年に廃城となったが、１７７８年同じ場所に「沼津城」が築城された。

明治になると、沼津城内に沼津兵学校がおかれた。校長は有名な西周（にしあまね）。リコー通りの「あまねガード」の傍には西周の屋敷があった。

戦国時代、沼工付近も戦場だった。又、沼津西高近くにある首塚は、千本松林の中で発見された多数の人骨を弔った碑で、人骨は戦国時代の合戦の戦死者のものである。

沼津西高では芸術科の生徒が「御城印」を作成して、お城マニアのお年寄りに沼津のお城の魅力をＰＲしている。沼工でも何かしてみたらどうだろうか。

（次回、高尾山の古墳についてお話し頂けることになりました。）

感　想

今回はこのようなセッションを開いて頂きありがとうございました。

自分は日本史が好きなのですが、城については少ししか知らなかったのでとても勉強になりました。

自分の家に近いのは韮山城で石垣は見たことがありました。一時期は北条氏が住んでいたとかいないとか、という話を聞いたことがありますが本当はどうなのでしょうか。

（ＰＮ県内一系好色な男·３年生）

沼津城だけは知っていたが、他にも４０ケ所も城があったとは思わなかった。特に長浜城は何度か訪れたことがある場所なので印象に残った。

（鯖・２年生）

今回、私は校長先生のとても貴重なお話を拝聴させていただきました。

「お城」と聞くと「工業とは無縁なのでは？」と思う人がほとんどだと思います。私も話を伺うまでは、そう思っていました。しかし、意外にも「工業」と「お城」とでリンクする部分があったのです！というのも、校長先生は大学で考古学を学んでいて、お城についても色々と研究をなさっていたようです。考古学というと「歴史」の知識がメインだと思う人もいると思いますが、実は我々工業高校生、特に建築科・都市環境工学科都市環境類型がメインで日々書いている「製図」、それから測量の技術も必要不可欠なのです。例えば、発掘時、地面から出てきたものを、位置や、形を少しも変えることなく図面化したり、お城の跡が出てきたりした場合、「測量」で位置・高さをなどを正確にし、それを「ＣＡＤ」で図面化・立体化していくと言います。考古学で必要とされる「歴史」の知識は、ほんの微々たるもので、むしろ、「製図・測量」に関する技術の方が必要だということになります。

ここからは、あくまで私の見解ですが、考古学などお城に限らず、遺跡などの調査・研究をするのは全世界共通だと思います。工業とは「ものづくり」だけではなく、すでにあった物の「歴史」を知るためにも必要な技術分野ではないでしょうか。工業に対してまた少し違った目線で見ることのできた、とても有意義な時間とすることができました。

お話を聞きに来られなかった人も、私のこの感想文を通じて、工業に対する興味の向上、工業技術を幅広い視点でとらえるきっかけとなって頂けたら幸いです。

そして、校長先生、とても貴重なお話、ありがとうございました！一人の工業人としてこれから日々励んでまいります！！

（副委員長・Ａ３）

楽しくてもっと聞きたかったけど、
電車の時間があったので、
途中で帰りました。また、こんな会があったら絶対出たいです。

（３年生）